



すこやか

ブラジル医療支援を高知大NPO

新型コロナウイルス対応 CFで寄付募る

ブラジルでの医療支援に取り組んでいる認定NPO法人「BRIDGE」(本部

・高知大学医学部環境医学教室)が、新型コロナウイルスの診療態勢を現地で整えるため、クラウドファンディング(CF)で寄付を募っている。関係者は「ブラジルには医療機関が少なく、治療を受けられない人がいる。高知から支援の輪を広げたい」と話している。

ブリッジは、高知大の菅沼成文教授が2014年に設立。ブラジル内陸部で、インディオが多く暮らす南マットグROSSO州ギアロペス市を中心に医療支援を続けている。

毎年1回、数人の医療チームを派遣して医療奉仕を行ってきたが、今年は新型コロナウイルスの影響で断念。8月

下旬の時点で、ブラジルは新型コロナウイルスの累計感染者が350万を超え、米国に次いで

世界で2番目に多くなっている。ブリッジは今年6月以



「ブリッジ」の支援金で配布されたマスクを手にする住民ら (ブラジルの南マットグROSSO州=ブリッジ提供)

降、新型コロナウイルスの対応に当たっている現地の「ギアロペス医学診断センター」に計400万円を寄付。感染症病棟の整備や、住民に配布するマスクや食料品の購入などに充てられたという。

それでも支援は足りず、現地からの要望は続いている。ブリッジの活動資金は底をついたため、CFに挑戦することになった。

受け付けは30日までで目標額は250万円。CFの運営会社への手数料50万円を除いた200万円を現地に送る。

ブリッジ理事長で仁淀病院(吾川郡いの町)の耳鼻咽喉科医、関博之さん(61)は「ブラジルでは助かるはずの命が助からない現状がある。日本以上に大変な思いをしている人たちに支援を」と呼び掛けている。

問い合わせはブリッジ (0888・88888・2008) へ。(山本 仁)